

様式2 環境基本計画進捗状況点検調書【重点プラン】

令和6年度		年間		環境基本計画進捗状況点検調書（重点プラン・平成29～36年度）															
●重点プラン 1 水辺環境の保全と緑の保全・創出（生き物にやさしい環境づくり）																			
●目標		～みんなで目指す平成36年度（令和6年度）の姿～ □夏の夜、水辺にはたくさんのホタルが飛び交っています。 □水田には、これまで見られなかった小魚や昆虫が見られるようになりました。 □道路には、あじさいなどの緑が植栽され、開成町らしい美しい景観となりました。																	
～みんなで目指す平成36年度（令和6年度）の姿～ 関連指標進捗状況				担当課		過去の状況							令和6年度 年間						
						H29	H30		R1	R2	R3	R4	R5	R6	整備状況				
関連指標	□単独浄化槽（事業所含む）件数 1,202 件			環境課		1193	1173		1037	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	件		
	□し尿処理件数 79 件			環境課		86	78		76	71	67	61	52	47	47	件			
	□ホタル生息地箇所数 8 箇所			環境課		6	6		6	6	6	6	6	6	6	箇所			
プロジェクトの取組状況				評価 A：100% B：50～100%未満 C：0～50%未満 D：未実施															
プロジェクト名		取組内容		担当課		過去評価						令和6年度 年間				評価	今後の課題		
						29	30	1	2	3	4	5	6	取組状況					
プロジェクト1 河川・水路の適切な維持管理の推進		○町は、水辺環境の保全を町民・事業者と協働で実施します。  ☆「かいせいクリーンデー」などの環境美化活動に参加します。  ☆河川・水路への不法投棄ゼロを目指し、町民・事業者・町の協働によりごみ拾いを行うなど、不法投棄防止に向けた啓発事業を行います。		環境課		A	A	A	D	D	A	A	A	○クリーンデーへの協力を自治会や子ども会、町内団体事業所、教育機関へ協力依頼し、河川・水路の清掃等を通して美化啓発や意識付けを行った。				A	○事業者の地域美化活動への参画を促進する。
プロジェクト2 生き物の棲める水路づくり		○町は、河川・水路の改修にあたって、生態系に配慮した整備に取組みます。  ☆町民はホタルの乱獲防止の巡回指導など、ホタル生息地の保全・拡大に向けた取組みを継続的に実施します。		都市整備課		D	C	C	C	C	C	C	C	○水路護岸工事を行う際に、周辺の環境に合わせた構造を採用し、生物にも配慮した。				C	○水路護岸工事を行う際に、周辺の環境に合わせた構造を採用し、多自然型水路の整備の検討や自然に親しめる水辺環境の保全に努める。
				環境課		A	A	A	C	C	C	C	C	○ホタルの里づくり研究会が活動休止となっているため、現状維持に努めた。				C	○生息地保存に向けた研究会への支援を継続する。 ○保全に対する近隣住民の理解や協力を得る。
プロジェクト3 休耕田の活用や生き物が棲める水田づくり		○町は、農地荒廃防止のため、農地の利用権設定や農作業の受委託の拡充を図ります。 ○沿道緑化、自然豊かな公園整備に努めます。  ☆農家は、環境保全型農業に取り組むよう努めます。 ☆町民や事業者は所有地の緑化に努めます。 ☆町民は、近くの公園や街路樹などの維持管理活動に参加します。		産業振興課		A	A	A	A	A	A	A	A	○利用権設定による農地利用を促進、あっせんを行い利用権設定農地面積が増加した。				A	○農業の担い手の開拓や6次産業化により北部地域の活性化を推進することにより、今後も継続して農地の保全に努める。
				都市整備課		B	B	B	B	A	A	A	B	○シルバー人材センターと派遣業務委託を締結し、迅速な対応がとれる体制を築き、良好な維持管理に努めた。また、有償ボランティア活動による水路内の清掃及び堆積土の撤去を実施し、適切な水路機能の確保に努めた。				B	○継続して実施する。

○は町が主体、☆は主に町民や事業者が主体となって行う取組み

様式2 環境基本計画進捗状況点検調書【重点プラン】

令和6年度	年間	環境基本計画進捗状況点検調書（重点プラン・平成29～36年度）												
●重点プラン 2 ごみの減量化・資源化（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクルの推進）														
●目標	～みんなで目指す平成36年度（令和6年度）の姿～ □家庭や事業所でのごみの減量化・資源化が推進されています。 □農家・菜園等で生ごみ堆肥を利用し農産物の生産をしています。													
～みんなで目指す平成36年度（令和6年度）の姿～ 関連指標進捗状況		担当課	過去の状況								令和6年度 年間			
			H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	整備状況			
関連指標	□家庭系ごみの住民1人、1日あたり排出量 672g	環境課	687	682	672	678	654	633	624	600	600	g		
	□ごみの資源化率 40%以上	環境課	31	31	31	31	31	30	32	31	31	%		
プロジェクトの取組状況		評価 A：100% B：50～100%未満 C：0～50%未満 D：未実施												
プロジェクト名	取組内容	担当課	過去評価								令和6年度 年間		評価	今後の課題
			29	30	1	2	3	4	5	6	取組状況			
プロジェクト1 町全体で生ごみの分別収集と資源化の推進	○町は、ごみの減量化・資源化に向け、リフューズ、リデュース、リユース、リサイクルの取組みを推進するため、町民や事業者への啓発を実施します。  ☆町民は、リフューズ、リデュース、リユース、リサイクルの取組みに協力します。 ☆町民は、生ごみ処理器を活用したごみ減量化に努めます。	環境課	B	A	A	C	A	B	B	B	○広報・ホームページ・ごみ置場での掲示により啓発に努めた。		B	○4Rの推進と合わせ、食品ロスを含むごみを生まないように、不要なものを買わないよう啓発する必要がある。
プロジェクト2 生ごみ堆肥化の活用	○町は、公共施設などに生ごみ堆肥を積極的に活用するとともに、農家や家庭菜園などへの活用を促します。  ☆町民は、農場や家庭菜園等で生ごみ堆肥を積極的に活用し特産品などを生産します。	産業振興課	A	A	A	A	A	A	A	A	○ふれあい農園利用者に生ごみ堆肥の活用について周知した。		A	○継続して周知活動を行う。
		環境課	A	A	A	B	B	C	B	B	○剪定枝等の処理について、グリーンリサイクルセンターの活用を促した。		B	○グリーンリサイクルセンターの設備が老朽化していることから計画的な修繕等の実施が必要。

○は町が主体、☆は主に町民や事業者が主体となって行う取組み

様式2 環境基本計画進捗状況点検調書【重点プラン】

令和6年度	年間	環境基本計画進捗状況点検調書（重点プラン・平成29～36年度）												
●重点プラン 3 地球温暖化対策の推進（地球にやさしい暮らしの実現）														
●目標	～みんなで目指す平成36年度（令和6年度）の姿～ □協働による自転車のまちづくりを推進しています。 □太陽光発電システムを導入する住宅軒数が増えています。 □全ての行政施設で CO2 排出量が削減されています。  □地球温暖化防止に積極的に取組む町民・事業者が増えています。 □ゼロエネルギーハウス（ZEH）を導入する住宅件数が増えています。 □再生可能エネルギーを導入した公共施設が増えています。													
～みんなで目指す平成36年度（令和6年度）の姿～ 関連指標進捗状況		担当課	過去の状況								令和6年度 年間			
			H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	整備状況			
関連指標	□ゼロエネルギーハウス（ZEH）設置補助件数（累計）27件	環境課	2	5	3	8	11	5	15	5	5	件		
	□地球温暖化防止活動推進事業所数 19 事業所	環境課	10	10	10	10	10	10	24	30	6	事業所		
	□自転車の安全な乗り方教室の参加者数 196 人	地域防災課	196	197	201	0	389	191	205	187	187	人		
プロジェクトの取組状況		評価 A：100% B：50～100%未満 C：0～50%未満 D：未実施												
プロジェクト名	取組内容	担当課	過去評価								令和6年度 年間		評価	今後の課題
			29	30	1	2	3	4	5	6	取組状況			
プロジェクト1 「自転車のまちづくり」の推進	○足柄上商工会と連携したレンタサイクルの取組みを推進します。 ○自転車を利用しやすい環境づくりを進めるため、子どもの自転車の安全な乗り方教室を開催します。 ○自転車・歩行キャンペーンを通じ、近距離の自転車利用を呼びかけます。 ○自転車のまちづくりの取組みを町内外に発信します。 ○開成駅周辺の自転車利用者の増加に対応するため、駐輪場の確保に努めます。  ☆町民や事業者は、身近な移動などに自転車を積極的に利用します。	環境課	A	A	A	D	D	D	D	D	○これまで県と県西地域2市8町が連携して進める「県西地域活性化プロジェクト」の一環として、県が実施する「コミュニティサイクル」及び「自転車の駅」の普及に向けた広報に取り組んできたが、事業が廃止されてしまった。		D	○「自転車のまち開成」の町内外への発信や更なる自転車の普及に向けて、どのような取組みが必要か再検討する必要がある。
		地域防災課	A	B	A	D	B	C	A	B	○マックスバリュ開成店周辺で自転車利用者等に対し、啓発活動を行った。  ○町立小学校4年生（開成小78名、開成南小109名）を対象とした自転車運転免許講習を実施した。  ○自転車乗車用ヘルメット着用促進の補助事業により、330名に購入の補助をした。		B	○自転車指導員講習を指導隊に受講させることにより中高生や成人、高齢者を対象とした交通安全教室の実施を検討する。  ○町HPを利用した啓発活動を実施していく必要がある。
プロジェクト2 家庭・事業所での地球温暖化防止運動の推進	○町は、情報提供等を通じて、町民・事業者の取組みを推進します。  ☆町民は、省エネ家計簿を活用したり、自動車利用の削減や自宅の緑化に努めるなど、自らできる地球温暖化防止活動を実施します。 ☆町民・事業者は、「デコ活」に参加することで、温暖化防止に貢献します。 ※「COOL CHOICE」、「マイエコ 10宣言」は「デコ活」へ移行。 ☆町民・事業者は家庭や事業所での新エネルギー（太陽光発電等）の導入を検討します。	環境課	A	A	A	A	A	A	A	A	○デコ活のPRを行った。  ○ゴーヤの苗を無料配布し、グリーンカーテンの設置を促進した。  ○ゼロカーボンシティ創成補助制度により、ZEHやEV等の補助を行った。国の重点対策加速化事業を活用。		A	○省エネ家計簿については、実践者の取り組み状況が分からないため、効果測定ができない。  ○ゼロカーボンシティ創成パートナー企業協定の締結を進め、町民に対してZEHやEV導入を働きかけていく必要がある。
プロジェクト3 地球温暖化防止実行計画の推進	○町は、行政施設の地球温暖化防止実行計画（平成24年3月）を見直し、新たな目標を設定するとともに、目標の達成に向けて各施策を実施します。	環境課	A	A	A	A	A	C	A	A	○令和5年度に改定した地球温暖化対策実行計画（事務事業編）に基づき、進捗管理を行った。また、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に基づき、ゼロカーボンシティ創成パートナー企業との協働により町民・事業者向けの環境講座や太陽光導入にかかる講座を実施した。		A	○環境学習の提供の場を他のイベントに併せて実施していく必要がある（単独では集客力が弱くて難しい）。

○は町が主体、☆は主に町民や事業者が主体となって行う取組み

様式2 環境基本計画進捗状況点検調書【重点プラン】

令和６年度		年間	環境基本計画進捗状況点検調書（重点プラン・平成29～36年度）											
●重点プラン　　４　環境学習の推進（みんなが学び、行動できるしくみづくり）														
●目標		～みんなで目指す平成36年度（令和６年度）の姿～ □環境学習会、環境フェア、環境講演会等の学習参加者が増えています。 □省エネ家計簿、町民環境調査、マイバッグ、エコドライブ、近距離自転車利用、アジェンダ登録等のエコ実践行動者が増えています。 □町民が取組んだ結果を掲載したり、発表したりする場、頻度が増えています。 □町民が主体的、継続的に学習、調査の企画・実行できる仕組み、サポート体制ができています。 □環境調査や環境学習会の企画・実行が町から町民主体に移っています。												
～みんなで目指す平成36年度（令和６年度）の姿～ 関連指標進捗状況			担当課	過去の状況							令和６年度 年間			
				H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	整備状況		
関連指標	□環境学習会等の開催回数　５回		環境課	3	3	2	0	0	5	5	8	8	回	
	□環境学習会等の参加者数　５００人		環境課	361	661	40	0	0	1500	54	265	265	人	
	□環境美化推進協議会委員の研修・交流回数　３回/年		環境課	3	3	3	0	1	3	3	3	3	回	
プロジェクトの取組状況			評価　　Ａ：１００％　　Ｂ：５０～１００％未満　　Ｃ：０～５０％未満　　Ｄ：未実施											
プロジェクト名	取組内容	担当課	過去評価								令和６年度 年間		評価	今後の課題
			29	30	1	2	3	4	5	6	取組状況			
プロジェクト１ 世代別関心テーマの 学習実践	○世代別学習ニーズの把握と学習方法の企画・実施に努めます。	環境課	B	C	C	D	D	B	C	A	○小学生の夏休みに合わせて開催しているジュニアサマースクール、ゼロカーボンシティ創成パートナー企業と協働で、再生可能エネルギーの活用の環境学習の場を設けた。		A	○世代別の様々なニーズや必要性等については、町民からの意見が少ないことから、ニーズや必要性を考慮し、今後の対応について検討していく。
プロジェクト２ 自治会、環境美化推進協議会委員などの 交流	○自治会・環境美化推進協議会委員・地球温暖化防止活動推進員などが相互に交流できる機会・場所（コミュニティー）を創出します。  ☆自治会、環境美化推進協議会委員などは、交流会などに積極的に参加し情報交換などを行います。	環境課	D	D	D	D	D	D	D	C	○環境美化推進協議会で意見交換会を実施した。		C	環境美化推進協議会委員など各団体との情報共有を促進していく。
プロジェクト３ 環境調査・環境学習会の実施	○町民環境調査を町民などとの協働により、継続的に実施します。 ○ごみ分別・リサイクル、エネルギー・省エネ、生活排水処理などの様々なテーマで環境 学習会を町民などとの協働により継続的に実施し、環境に関する知識や意識の向上を図ります。 ○環境美化推進協議会委員などへの研修会を定期的に実施していきます。	環境課	B	A	B	D	D	C	C	B	○開成町環境基本計画（2025～2032）の策定にあたって、町民、事業者 にアンケートを行った。  ○小学生の夏休みに合わせて開催しているジュニアサマースクールにおいて、自然エネルギーの活用の環境学習の場を設けた。  ○環境美化推進協議会委員に対し環境施設の見学会を実施した。		B	○環境学習の提供の場を他のイベントに併せて実施していく必要がある（単独では集客力が弱くて難しい）。

○は町が主体、☆は主に町民や事業者が主体となって行う取組み